

進捗状況の概要 【1ページ以内】

【多彩な枠組みによる相互学生交流の実施】

本事業では、インドの交流相手校（インド理科大学院大学、インド工科大学ガンディナガール校、デリー大学）との間で、日印双方で開催する国際ワークショップやセミナー等への参加を主目的とした短期交流を足がかりに、その後の協働教育研究指導プログラムやダブルディグリープログラムといった中・長期交流を行う。この段階的なプログラム展開とインド進出企業との連携を組み合わせることで、学生のモチベーション向上と現地での課題を意識した効果的な学修を行い、産業構造や社会の変革を見据えた知的にたくましい人材、日印両国の産業界・学術界で架け橋となるリーダーの育成を目指す。

平成26、27年度は、主に国際ワークショップ等の短期交流及び協働教育研究指導プログラムによる交流を以下のとおり行った。

- ①交流相手校との連携による国際ワークショップ・セミナー交流として、インドで国際ワークショップ等を計4件開催し、本学から日本人学生計27名を派遣した。派遣学生のうち約7割の19名の学生に対し現地進出企業の視察を併せて実施した。また、本学では計4件の国際ワークショップ等を開催し、交流相手校から計16名の学生を受け入れた。
- ②協働教育研究指導プログラムとして、インドの交流相手校に本学から日本人学生2名を3か月間派遣した。派遣学生2名に対し、インド滞在中、インド進出日本企業において2週間のインターンシップを併せて実施した。また、交流相手校の大学院生7名を協働教育研究指導のために本学に受け入れたほか、学部学生13名を特別学修生として一定期間受け入れた。
- ③デリー大学とのダブルディグリープログラムにおいて、本学博士前期課程にデリー大学から6名の学生を受け入れた。また、インド工科大学ガンディナガール校とは、学生の相互交流を伴う双方向型ダブルディグリープログラム構築に向け、教育方針の一致を確認しており、今後は単位の相互認定や成績管理等、質の保証を伴ったプログラム実施体制確立のための協議を重ね、平成28年度の覚書締結、平成29年度の学生募集開始を目指している。

【相互学生交流に向けた体制整備】

質の保証を伴ったプログラム実施のため、交流学生の選考においては、本学が定める要項に従い英語でのコミュニケーション能力や意欲等を総合判定し選考している。また、平成27年度より授業科目「科学技術世界展開」を新設し、国際ワークショップ・セミナー等への参加を当該科目の履修の一部とし、ワークショップ等参加の学修成果について単位を認定した。

平成27年4月には留学支援センターを設置し、派遣・受入学生の航空券・宿舎等手配や査証取得支援、派遣学生の英語でのディスカッション能力向上のための事前研修の実施、外部講師による安全講習会の開催、インド派遣学生帰国報告会の開催、派遣・受入学生への指導助言等、きめ細やかな総合サポートを行っている。平成28年4月には本学の国際化推進のため、国際連携本部を設置し、本部内に留学支援センター及び語学教育（英語及び留学生向けの日本語）や世界事情等の教育を行うグローバルコミュニケーションセンターを配置し、交流学生の語学力のレベルに応じた研修の実施等、より一層充実したサポート体制を整備した。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成26年度				平成27年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
8人	11人	18人	20人	18人	18人	20人	22人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。